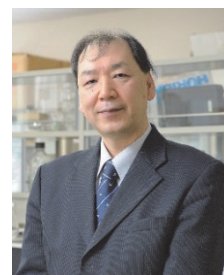


【 巻 頭 言 】

熱測定の独自性・重要性を世の中に発信！

日本熱測定学会 会長
長岡技術科学大学大学院 城所 俊一



2017年を迎え、新春のお喜びを申し上げます。会員の皆様のご健康とご多幸を心よりお祈りいたします。昨年の徳島大学での第52回熱測定討論会の総会では、会計年度の変更と会費減免に関する会則改正が行われました。

学会設立時には、11～12月開催の熱測定討論会にあわせ、会計年度は9月末締めとされましたが、近年は9月に熱測定討論会が行われることも多くなり、従来の会計年度では様々な不都合が出て参りました。新たな会計年度は7月締めの8月始まりとなります。今年度(2017年度)だけは移行措置で、昨年10月に始まり今年7月末までとなります。なお、役員任期の開始は10月1日と会則に明記され、討論会の総会で新旧役員交代(引継ぎ)が行われるのは従来通りです。会員の皆様には、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

また、大学院修了後の研究職のポストが不足する状態が長期間続くとともに、若手研究者のポストは、3～5年間という短い任期がつく傾向にあります。今回の会費減免措置は、このような状況にある若手会員を経済的に少しでも支援するために設けられたものです。本質的な解決にはなりません。未来を担う若手研究者の研究環境を改善してゆく契機となることを期待しております。

さて、昨年8月には、恒例となった日米合同熱測定シンポジウム CALCON(米国・オアフ島)、ICTAC(米国・オランダ)、ICCT(中国・桂林)と熱測定関係の大きな国際会議が開催され、受賞や国際学会役員就任など多くの会員が国際的に活躍されていることを再確認できる年となりました。また、本年11月には、これも恒例となった日中および国際シンポジウム(CATS)が、第53回熱測定討論会と連続して福岡大学で開催されます。ぜひ多くの皆様にご参加・ご発表いただけますようよろしくお願い申し上げます。

また、昨年の学会誌「熱測定」Vol.43は、編集委員会の尽力により、毎号充実した解説記事が掲載され、専門分野が異なる最新のテーマでもわかりやすく紹介されています。Vol.43は発行時期の遅延もなく、タイムリーに情報をお届けできたように思います。

このように、国内外での充実した研究会の開催や研究交流は、今までもまた将来においても学会活動の中心となることはいうまでもありません。しかしながら、多くの魅力的な研究分野が出現し、世の中の研究費・施設・研究者(ポスト)に限りがあることを考えるとき、どの研究分野もその重要性を効果的に発信して上記研究資源を確保してゆくことが必要となります。本学会も、会員の皆様のご協力を得て、熱測定領域の研究の重要性を世の中にアピールしてゆきたいと考えます。この場をお借りして、以下に、このための私案を述べたいと思います。

まず、長期的には、熱力学・熱化学関連分野の教育の充実を図ることが必要と思います。例えば、大学や大学院教育で、学生が興味をもって熱力学を自発的に学ぶための仕

組みを作ることは重要と考えます。対象を巨視的に記述し制御するための必須の知識・技術である熱力学・熱化学を、理系の技術者・研究者に修得してもらうことで、熱測定の重要性は確実に理解が広がるものと考えます。また、初等・中等教育での、温度や熱に関する現象への生徒の興味を引く教材や実験の開発も、熱測定分野の研究の理解者を増やし、研究者の裾野を広げるために効果があると思います。近年、熱測定討論会でもシンポジウムのテーマとして「教育」が取り上げられ、昨年の討論会では、発表申し込み時の希望分類の一つとして「教育」が採用されました。今後も学会全体として着実に取り組んでゆくことが期待されます。

次に、中期的には、研究成果の世の中への積極的なアピールが重要です。従来から、熱測定講習会等では、非会員を含む技術者・研究者を対象に、熱測定の基礎知識や測定技術等を講義・演習によりお伝えしてきました。今年3月に早稲田大学で開催予定の熱測定講習会は、スプリングスクールと銘打ち、日程を1日延長して、講義内容をより充実させるとともに、個別測定のニーズに答える内容で実施されます。また、維持会員の新特典として、熱測定に関するよろず相談に応じる「熱測定コンシェルジュ」制度の創設を検討しています。このように、産業界等に、熱測定関連分野の知識・技術を活用していただくための仕組みを作り、継続・発展させてゆきたいと考えています。

更に、短期的には、有用な情報をアクセスしやすい形で積極的に発信してゆくことが効果的と考えます。広報委員会の努力によって学会ホームページの情報はタイムリーに更新され会員への情報提供は充実してきていますが、会員外への情報発信という観点からは、更に力を入れてゆかなければなりません。また、様々な学会、熱測定講習会、熱測定ワークショップ等の機会での効果的な宣伝のために、入会勧誘のパンフレットを作成する予定で現在準備を進めています。

熱測定は、エネルギー変化を直接評価できるユニークな方法です。また、温度と組み合わせることで、仮定やモデルなしに系全体の変化を理解し、定量的に予測できる可能性を持っています。昨年の巻頭言で書かせていただきましたが、熱測定でなければ明確にならない現象があることが、熱測定の魅力・楽しみであり、科学・技術の中の重要性を示していると思います。

会員の皆様がカバーする多彩な研究対象に対して、熱測定を活用して実現された研究成果を、上記のような長・中・短期の学会の取り組みに適切に取り込ませていただくことで、熱測定分野の研究の独自性や重要性を効果的に発信してゆくことができるのではないかと考えている次第です。このような学会の取り組みに会員の皆様のご支援・ご協力をお願いし、年頭のご挨拶といたします。